

二本松城

霞ヶ城公園は、1414年から1868年まで安達太良連峰の支脈にそびえていた二本松城の跡地に作られました。二本松城は何人も大名の居城となった後、1643年に丹羽光重に与えられました。光重とその子孫による都市計画によって、現在の二本松市の基礎が築かれました。丹羽家はこの城を拠点に統治しましたが、1868年に戊辰戦争で城も領地も破壊されました。現在、公園には保存および復元された石垣、建物、庭園があり、過去の城の姿を明らかにしています。

この公園で最も高いところにあるのが、城の中で最初に完成した部分、本丸です。本丸の周囲は石垣に囲まれており、その石垣の一部は16世紀後半に築かれました。本丸内の天守台には実際の天守閣があったことはないものの、ここからは二本松周辺の土地を一望できます。公園の下方には、敷地内に現存する最古の建造物である洗心亭のほか、再現された箕輪門や17世紀半ばに作られた日本庭園もあります。

城内は、桜まつりや菊人形まつりなど、季節ごとの地域行事にも利用されます。二本松城はもう存在しませんが、この場所は依然として市民生活の中心です。